

# あいだと間



〈あいだ〉や〈間(ま)〉について語ることは難しい。それは、ときに不可能とすら見える。というのも、〈あいだ〉は在るようで無く、無いようで在る無限定の存在だからである。それは〈もの〉や〈ひと〉のように自存して在るものではない。だが逆に、〈あいだ〉がなければ、〈もの〉も〈ひと〉も支えを失い、在ることはできない。

〈あいだ〉のない世界には、稠密に充満した無差別の拡がり(延長)が在るだけである。それは空間ですらない。〈もの〉や〈ひと〉を容れる余地(space)をもたないからである。したがって、そこには上下左右の区別もない。無差別の連続体に切れ目を入れることによって初めて、〈あいだ〉は出現する。デデキントではないが、切断は連続体を二つの領域に分割する。それによって、〈もの〉と〈もの〉との間には「距離」が、〈ひと〉と〈ひと〉の間には「関係」が生ずる。言い換えれば、切断は〈あいだ〉をもたらす世界の分節装置であり、〈もの〉や〈ひと〉の個体化の原理でもある。〈あいだ〉を通じて、世界は sens すなわち方向と意味とを身に帯び始める。

同様のことは時間についても言える。隙間のない充溢した連続体に時間は流れない。前後の区別を可能にする切断を通じて、時は流れ始める。音と音とは〈あいだ〉に隔てられることによって逆に結びつき、妙なる楽曲となる。しかし、水平の〈あいだ〉を手に入れただけでは、音はまだ人の心に響かない。それはクロノスという「過去から未来に向かって飴のように伸びた時間」(小林秀雄「無常といふ事」)を生ずるだけである。音の連なりがニーチェの言う「音楽の精霊」を宿すためには、カイロスの手助けを必要とする。それを好機(チャンス)やタイミング、あるいは垂直の〈あいだ〉と言い換えてもよい。

同じ機制は自己の成立にも働く。昨日の自己と今日の自己の同一性を支えるのは、水平の〈あいだ〉である。だが、それだけでは足りない。自己が自己となるためには、自らを垂直の〈あいだ〉に投錨しなければならない。その垂直の〈あいだ〉を木村敏は「生命一般の根拠」と呼んだ。自他関係、すなわち私と汝の差異と同一もまた、この根拠に与かっているのである。

〈あいだ〉は物と物、人と人とを結びつけると同時に切り離す。ジンメルならば「人間は、事物を結合する存在であり、同時にまた、つねに分離しないではいられない存在だ」(「橋と扉」)と言うであろう。分離の象徴が「壁」であるとすれば、結合のそれは「橋」である。「日本の橋」のなかで、保田与重郎は「ものをつなぎかけわたすという心から、橋と愛情相聞の関係はずい分に久しいものようである」と述べた。時空の端緒から橋上の出会いと別れ、そして間柄の倫理まで、〈あいだ〉は森羅万象を象り司るアルケー、すなわち「無限定なるもの(ト・アペイロン)」にはかならない。(野家啓一)



駅(地下鉄)から弥生講堂一条ホールまでの所要時間  
 ◎東京メトロ 南北線「東大前」駅下車 徒歩1分  
 ◎東京メトロ 千代田線「根津」駅下車 徒歩8分

お問い合わせ先

## 河合文化教育研究所

シンポジウム本部事務局

〒464-8610 名古屋市千種区今池二丁目1番10号

河合塾千種校内

TEL 052-735-1706 (月-金 9:00-18:00)

FAX 052-735-4032

東京分室

TEL 03-6811-5517 (月-金 11:00-18:00)

FAX 03-5958-1241

日時

2018年12月9日(日) 11:00-18:00

会場

東京大学 弥生講堂 一条ホール

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学弥生キャンパス内

《参加費 1000円(資料代含む) / 学生無料》

【主催】 河合文化教育研究所

11:00

**野間俊一** (発表1)  
「〈あいだ〉の眼差し」

■ コメンテーターとの討論

12:00

**宮内 勝** (発表2)  
「音楽における『間』と『あいだ』」

■ コメンテーターとの討論

13:00

昼食 (～14:00)

14:00

**阪上正巳** (発表3)  
「統合失調症者の音楽表現とあいだ」

■ コメンテーターとの討論

15:00

**村上陽一郎** (発表4)  
「〈あいだ〉と〈ま〉のはざま」

■ コメンテーターとの討論

16:00

休憩 (～16:15)

16:15

全体討論 (～18:00)

シンポジスト



**村上陽一郎** ● *Murakami Yoichiro*

1936年東京生まれ。東京大学で科学史・科学哲学を学ぶ。東京大学・国際基督教大学名誉教授。上智大学、東京大学、国際基督教大学、東京理科大学、ウィーン工科大学、北京人民大学などの教職を務める。専攻は科学史・科学哲学。

主著：『死の臨床学』(新曜社)



**宮内 勝** ● *Miyauchi Masaru*

1949年生まれ。東京外国語大学英米語学科卒業。東京藝術大学大学院音楽学専修課程修了。元東京藝術大学楽理科講師。専攻は音楽美学。

主著：『音楽の美の戦いと音楽世界』(文芸社)



**阪上正巳** ● *Sakaue Masami*

1958年生まれ。金沢大学医学部卒業。国立音楽大学音楽文化教育学科教授。専攻は精神病理学・音楽療法。

主著：『精神の病いと音楽  
—スキゾフレニア・生命・自然』(廣済堂出版)  
『音楽療法と精神医学』(人間と歴史社)



**野間俊一** ● *Noma Shunichi*

1965年生まれ。京都大学医学部卒業。京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学講師。

専攻は青年期精神医学、精神病理学。

主著：『解離する生命』(みすず書房)  
『身体の時間』(筑摩選書)  
『身体の哲学』(講談社)

挨拶



**木村 敏** ● *Kimura Bin*

1931年生まれ。京都大学医学部卒業。京都大学名誉教授、河合文化教育研究所所長・主任研究員。

専攻は精神病理学。

主著：『関係としての自己』(みすず書房)  
『分裂病の詩と真実』(河合文化教育研究所)  
『木村敏著作集』全3巻(弘文堂)

総合司会



**野家啓一** ● *Noe Keiichi*

1949年生まれ。東北大学理学部卒業。東京大学大学院理学系研究科博士課程(科学史・科学基礎論)中退。東北大学名誉教授・総長特命教授。専攻は哲学・科学基礎論。

主著：『物語の哲学』(岩波現代文庫)  
『歴史を哲学する』(岩波現代文庫)  
『科学哲学への招待』(ちくま学芸文庫)  
『はざまの哲学』(青土社)

コメンテーター



**谷 徹** ● *Tani Toru*

1954年生まれ。慶應義塾大学大学院文学研究科哲学・倫理学専攻博士課程単位取得退学。立命館大学文学部人文学科哲学専攻教授、間文化現象学研究センター長。専攻は哲学。

主著：『意識の自然』(勁草書房)  
『これが現象学だ』(講談社現代新書)



**内海 健** ● *Utsumi Takeshi*

1955年生まれ。東京大学医学部卒業。東京藝術大学保健管理センター教授。専攻は精神病理学。

主著：『うつ病の心理』(誠信書房)  
『panse・スキゾフレニック』(弘文堂)  
『さまよえる自己』(筑摩選書)  
『自閉症スペクトラムの精神病理』(医学書院)